

「映画 日本国憲法」出演者来日記念・上映会+シンポジウム

主催シグロ
後援マガジン9条

2005年
12月10日(土)13:00開場
全電通ホール

どうする!? わたしたちの憲法。 アジアからの声を聞く

ジャン・ユンカーマン
監督作品
映画
日本国憲法
The Constitution of Japan

画 奈良美智 「Missing in Action-Girl meets Boy」(広島市現代美術館所蔵)



ジャン・ユンカーマン
(本作品監督)
映画監督、ジャーナリスト

1952年、米国ミルウォーキー生まれ。国際政治、経済、労働運動、環境問題などの分野でジャーナリストとして活躍する傍ら、映像の世界へも道を拓く。映画『HELLFIRE 劫火』では、米国アカデミー賞記録映画部門にノミネート。9.11のテロ後にノーム・チョムスキーにインタビューした『チョムスキー9.11』(2002)は、世界十数カ国で翻訳・上映され、現在も各国で劇場公開が続いている。

『映画 日本国憲法』(ジャン・ユンカーマン監督)は、今春完成以来、全国100カ所以上で上映され、「世界のいろいろな視点から、わたしたちの憲法を見つめなおすことができ良かった!」と大きな反響が寄せられています。しかしその一方で、9条改定への流れやアジア外交の行き詰まり、イラク派兵期限の問題など、わたしたちの憲法と平和をとりまく環境は、思わしいものではありません。

どうする!そしてどうなる? わたしたちの憲法。

この度、上映会の開催にあたり、大田昌秀さんによる基調講演「憲法と沖縄」と、映画の出演者を中国と韓国からお招きし、パネルディスカッション「アジアから見た日本、そして憲法」を行います。映画をご覧になった方も、これからの方も、ご来場をお待ちしております。



班 忠義 (本作品出演者)
作家・映画監督、中国

バン・チュンイ 1960年中国・撫順生まれ。1987年来日。上智大学大学院にて学ぶ。中国残留日本人女性について書いた著書『曾おばさんの海』(朝日新聞社)で朝日ジャーナル大賞受賞。旧日本軍による中国人への性被害の問題を長年にわたり取材、『Gai Shanxi and Her Sisters』(2000年)、『Gai Shanxi and Her Sisters』(2004年)などの記録映画を製作した。

緊急
来日決定!

9条を守ることは日本人の責任だけではなく、私たち現在に生きる人類の責任であると思います。私たち人類の急務だと思います。

班 忠義
「映画 日本国憲法」より



韓 洪九 (本作品出演者)
歴史家、韓国

韓国と日本の若い世代が歩調を合わせ、平和的な感受性を一緒に育てていくことなのです。 韓 洪九

「映画 日本国憲法」より

ハン・ホング 1959年ソウル生まれ。2000年、聖公会大学助教授に就任。現在同大学人権平和センター所長。大学での講義の傍ら、市民運動に多くの時間を捧げている。平和博物館の建立や良心的兵役拒否の運動に関わるなど、韓国現代史を見直す活動を積極的に行い、新進の歴史家として注目される。近著『大韓民国史』(平凡社邦題「韓洪九の韓国現代史」)は、韓国でベストセラーに。



基調講演 大田昌秀氏
元沖縄県知事、参議院議員

おおた・まさひで 1925年沖縄生まれ。1945年に米軍が沖縄に上陸した時、学徒隊の一員として戦場へ。1958年より琉球大学で教鞭を執りつつ、日本本土復帰前後から、沖縄県民のオピニオンリーダーに。1990年より8年間、沖縄県知事をつとめる。「基地NO!」を敢然と日本政府に言い続けた姿勢は、非常に影響力を持った。近著に「沖縄差別と平和憲法(BOC出版)」他著書多数。琉球大学名誉教授、大田平和総合研究所主宰および米国日本政策研究所理事。

お問い合わせ先 シグロ Tel.03-5343-3101